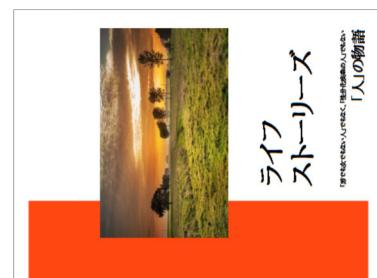
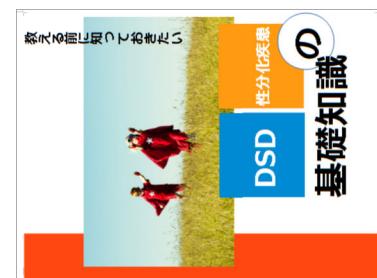


やるべきこと・やってはいけないこと

- ✓ 男女の体の特徴があることを教えて下さい。
- ✓ 二次性徴の体の変化について教える時も、二次性徴が現れない場合などがあることを付け加えてください。
- ✓ 家族の方について教える時は、養子縁組する人や、様々な生き方があることを教えて下さい。
- ✓ 体の性と性自認・性的指向はそれぞれ別のものだということを確認するようにして下さい。

- ✓ DSDを持つ生徒が教室にいる場合は、誰にどこまで話すかなど、あくまでその子の主体性を尊重して下さい。
- ✗ DSDを持つ人や子どもを、「男でも女でもない」「中性」「男女の特徴を持つ」と言及しないで下さい。
- ✗ DSDsを、性別のある方に疑問を投げかける根拠にしないで下さい。

より詳しくは…



DSDsには様々な体の状態、旅の始まりがあり、中には命にかかる疾患もあります。そのため医療機関でも子育ての上でも、それぞれ個々に応じた丁寧な対応が必要になります。

このように、他の人と少し違った性に関する体の発達のプロセスをたどった状態には様々なものがあるため、現在では **Differences of Sex Development : 性に関する様々な体の発達状態(DSDs)** と呼ばれることが多くなっています。

DSDsには様々な体の状態、旅の始まりがあり、中には命にかかる疾患もあります。そのため医療機関でも子育ての上でも、それぞれ個々に応じた丁寧な対応が必要になります。

DSDs（性分化疾患）の 教え方にについて

— 性教育で気をつけたいこと —



このパンフレットは、欧米の各 DSDs サポートグループのご協力をいただき、作成されました。
「ご協力いただいたグループ」 dsd ファミリーズ・AIS-DSD サポートグループ US・ケアズファウンデーション (CAH サポートグループ)・ビューティフルユー (MRKH サポートグループ)・尿道下裂フォーラム UK・HEA (尿道下裂・上裂サポートグループ)

HOW TO TEACH ABOUT DSDs

「性分化疾患」「インターセックス」という言葉を聞かれたことはあるでしょうか？性分化疾患とは、「染色体、性腺、もしくは解剖学的に性に関する体の発達が先天的に非定型的である状態」を指す医学用語です。

一般的に、性に関する体の発達は胎児期に始まり、思春期・青年期に起ります。特にお母さんのお腹の中で基本的な体の形態が形成されていく胎児期での、性に関する体の発達のプロセスはとても複雑なもので、その過程の中で、これが一般的だとされる男性・女性の体とは少し違った体の発達のプロセスを踏む、男の子・女の子の赤ちゃんもいるのです。

一般的に、性に関する体の発達には少し違った性に関する体の発達のプロセスをたどった状態には様々なものがあるため、現在では **Differences of Sex Development : 性に関する様々な体の発達状態(DSDs)** と呼ばれることが多くなっています。

DSDsには様々な体の状態、旅の始まりがあり、中には命にかかる疾患もあります。そのため医療機関でも子育ての上でも、それぞれ個々に応じた丁寧な対応が必要になります。

性に関することで、とても大切でプライバートな事柄なのですが、様々な社会的偏見・ステレオタイプ、まだほとんど何も分かっていない頃の古い知識に基づくものもねばねばならず、また自殺未遂率が非常に高いという調査結果もあります。

最近では各種メディアなどで DSDs のことが紹介されることも多くなり、学校や大学の教室で DSDs が教えられるようにもなってきました。ですが、その中には従来の社会的偏見・ステレオタイプ、まだほとんど何も分かっていない頃の古い知識に基づくものも多く、かえって DSD を持つ子どもたち・ご家族を無用に傷つける結果にもなっています。

このパンフレットは、欧米の DSDs サポートグループの協力をいたしました。ここ 15 年の知見に基づく DSDs についての正確な情報を提供し、教室で教える時の留意点などについてポイントを解説します。



DSD を持つ子どもたちのサマー・キャンプの様子

ネクス DSD

nexdss JAPAN

DSD (性分化疾患) を持つ
子どもと家族のための情報サイト
ネクス DSD ジャパン
<http://www.nexdss.com/>

DSDs

Differences of Sex Development 性に関する様々な体の発達状態

「性分化疾患」は現在では、「Differences of sex development：性に関する様々な体の発達状態」とも呼ばれています。

DSDには、然るべき検査なしでは性別がその場では確認しにくい外性器や、内性器が露出した状態で生まれる男の子や女の子、無月経等で染色体がXYであることが判明する女の子や、腎・子宮が無いと分かる女の子など、様々な体の状態があります。

アイデンティティではありません。



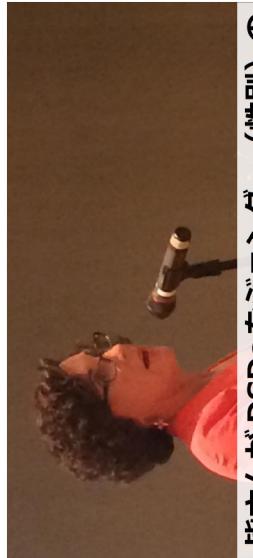
この体は私の一部
にしたくない！
私を定義するもの



ただ、いろいろな男性がいる・いろいろな女性がいるというだけのことなんです。

大部分の当事者にとって、DSDとはあくまで体の一部の状態に過ぎず、その人の性別等のアイデンティティではありません。またDSDsとは括用語に過ぎず、それぞれの体の状態ごとに状況は大きく異なります。DSDsを、「インター・セックス」という性別」等、ひとつのカテゴリーと捉えなさいことが重要です。

性別の問題ではありません。



皆さんかDSDsをジェンダー（性別）の問題にしたがりますが、そういう状況こそが私達が問題にしていることなんですね。

DSDはどうしても性別の問題と結ばれがちで、また性別自認・性指向と誤解されること非常に多く、むしろそれによって当事者が傷ついている現状があります。体の性や「らしさ」と、性別自認・性的指向とは基本的に関係がないことを押さえておいて下さい。

私たちちは、例えば背の高い女性を「半分男」とは言いませんし、優しい男性を「男でも女でもない」とは言いません。当然それは失礼に当たるからです。そしてこれはDSDを持つ人々に対しても同じです。私たちにはいつも「男でも女でもない体」というイメージを思い起しがちですが、実際DSDを持つ人々は、**体の性に**関する**生物学的・社会規範**、つまり例えば女性なら、「染色体はXXでなければならぬ。子宮と腎は絶対必要で、子どもを産めなくてはならない。エストロゲンは0.6pg/ml以上。性腺(=卵巣)として機能していなくてはならない。クリトリスは2.5cm以下でなくてはならない」という規範・基準とは、それぞれ一部だけ異なる体の状態をもつた人に過ぎません。

どうにDSDsを教えるか？

私たちちは、「インター・セックス」と言われるけど、どうしても「男でも女でもない体」というイメージを思い起しがちですが、実際DSDを持つ人々は、**体の性に**関する**生物学的・社会規範**、つまり例えば女性なら、「染色体はXXでなければならぬ。子宮と腎は絶対必要で、子どもを産めなくてはならない。エストロゲンは0.6pg/ml以上。性腺(=卵巣)として機能していなくてはならない。クリトリスは2.5cm以下でなくてはならない」という規範・基準とは、それぞれ一部だけ異なる体の状態をもつた人に過ぎません。

性的マイノリティの人もいます。



当事者のほとんどは男性か女性だ。
どちらででもないという人もいる。
それでOKだ。

DSDを持つ人々の大多数はLGBT等の性的マイノリティのカテゴリーに加えられることが多いことは否定的です。ですがもちろん、DSDを持たない人達と同じく、DSDを持つ人々にも、自分を「男性でも女でもない」と自認する人や同性愛・性別違和を持つ人々もいます。

ひとりではありません！



あなたはひとりじゃない！

DSDを持つ人々の認識としては、「男性と女性の間にDSDのグラデーションがある」ではなく、「男性の体、女性の体にも色々ある」ということです。学校で習う男女の体の構造は基礎的なことでしかありません。グラデーションモデルは、性別自認や性指向で用いるのが最適です。

実は不妊の問題も大きいです。



赤ちゃんを産みたいという私の夢は
打ち碎かれました。
(お子さんを養育・扶養組したDSDを持つ女性)

思春期前後にDSDが判明したり、親御さんから説明を受けた子どもが多くが一番悲しむのは、実は赤ん坊を作れないことです。(DSDを持つ人々の全員が不妊ではありません)。養子縁組などの運び肢があること、子どもを作れなくとも様々な家族の形態があることを教えることが重要です。

また、人権先進国であるオランダの国家機関のDSDsについての調査提言書では、性・人権教育では、LGBT等の性的マイノリティの人達の人権課題とは別立てにし、DSDsを性別のカテゴリーと捉える誤解を生まないよう、「性分化疾患」「インター・セックス」等の包括用語は使わず、体の多様性として教えるように提言しています。DSDsは一つのカテゴリーに収まらない、それぞれの体の状態によって、併発する疾患や不妊の問題など、様々にセンシティブな課題があります。何よりも大事なプライベートゾーンの話です。きめ細やかな配慮をしながら伝えていくことが重要でしょう。



男性的体や見た目にも、いろいろな体や見た目があります。 いろいろな体や見た目があります。